

## 衣服およびその生地に対する評定の再現性の検討

○劉 敬淑\* 福井 典代\*\* 藤原 康晴\*\*

(\*韓国群山大, \*\*鳴門教育大)

〈目的〉自分の性向や能力などを測定する自己評価尺度が新たに構成されたとき、再検査法によってその尺度の信頼性が検討されている。この再検査法は同じ評定者を対象に同じ尺度を用い、一定期間を置いて再検査する方法であり、その1回目と2回目の評定値の相関係数が信頼性の指標として用いられている。著者らは、この再検査法を服装を刺激とした評定に適用し、全評定者の平均的な評定値を用いて測定尺度別に評定の再現性を求めるとともに、各評定者別の評定値を用いて各評定者の評定の再現性を検討している。前報では、服装写真、色紙を刺激として用いて評定の再現性を測定して報告したが、本報では、実際の衣服、その衣服の生地を刺激として用い、評定の再現性を検討した。

〈方法〉平成10年12月、韓国群山大学2、3年女子学生93名を対象に、ワンピース2種、セーター、ツーピース、生地2種(たて18.5cm×よこ17.5cm)を刺激として提示し、15の評定尺度を用いて測定した。衣服は人台に着用させた状態で評定し、生地は手で触りながら評定するように指示した。測定は同じ方法で一週間の間隔を置いて実施し、それらの測定では、刺激の提示順序を変えて行った。

〈結果〉2回の評定値に対して各評定者別に相関係数( $r$ )を求めたところ $-0.12\sim 0.89$ の範囲にあり、その平均値は $0.63$ であった。次に、各尺度別の $r$ を算出した結果、 $0.30$ (すっきりした/ごてごてした)から $0.56$ (しゃれた/やぼったい、好き/きらい)の範囲となり、その平均値は $0.39$ であった。全評定者を再現性の良否( $r$ の大小)によって3グループに分け、各刺激別、各評定尺度別に3グループの評定平均値を求め、グループ間の違いを分析した結果、 $90$ (6刺激×15尺度)の評定平均値のうちの24%に違いが認められた。